

## 家族の成長

うちだ ふみこ  
内田 文子 ●電機連合 中央執行委員

先日、長男（高校3年生）から「卒業アルバムに使うから3～5歳頃の写真ちょうだい」と言われ、久しぶりに撮りためてあった写真データをみました。いろいろな写真をみていると、思わず懐かしくなって見入ってしまい、想定よりも時間がかかってしまいました。

どの表情もかわいく、いつまででもみられる……。引越しや片付けの時にアルバムなんかをみつけてよく陥るパターンですね。なかなか作業が進まない……。

そんな中、ある1枚の写真をみつけ、当時のことを思い出していました。それは、病室で撮った1枚でした。

この時は、保育園に入園して1週間もたたない頃だったと思いますが、保育園から初のお迎えコールがあり、迎えに行くと「ロタウィルス感染症の疑いがあるので、すぐ病院を受診してください」と言われ、「ロ、ロタ……？」当時は初めて聞く病名でした。

近くの小児科の病院で診てもらおうと、「ロタだね。大学病院に紹介状書くから持って行って。」と言われ、結局大学病院を受診し、そのまま入院することに。個室で付き添いがOKだったこともあり、5日間ほど泊まり込みになりました。

それから「熱が出ました」「怪我をしました」など事ある毎にお迎えコールがあったり、感染症による登園禁止への対応やアトピーや喘息での通院などで有給を次々と消化していきました。年度の終わり頃には有給が残り0.5日までになり、次に呼び出しがあったら欠勤と言う

状態に。なのに、旦那は「今年も年次切り捨てかあ」とつぶやいていた……。

「ん？なんかおかしくない？」今なら分かります、これってアンコンシャスバイアスの結果なのです。

当時は、子どもの関係は母親が担うものという暗黙の何かが働き、圧倒的に母親である私に対応することが多かったのです。

多くのご家庭でもそうだったと思います。当時は、子どもの送り迎えや保護者会に参加するのはお母さんがほとんどでした。

翌年も同じことが続けば、私は明らかに欠勤になってしまう。そこで旦那と交渉し、対応する頻度を増やしてもらうことに。それ以降は、旦那も積極的に育児に関わってくれるようになりました。

今では、在宅勤務が多い旦那の方が子どもたちと接してる時間は多いです。学校や塾関係は私に対応していますが、子どもの成長とともに関わり方も大きく変わったなと感じます。

写真のことに話を戻すと、やっと候補を5枚ほどに絞って、長男に見せたところ全部却下。当時の写真と同じポーズを撮らないといけなく、普通がいいとのことで、ちょっと外を眺めているだけの写真になりました。

小さい頃はいろいろなポーズや変顔を撮らせてくれたのに、今では写真を撮らせてくれません。少しさみしい気もしますが、これも成長したと言うことなのでしょうね。

今年はW受験の我が家。子どもたちの受験が終われば、また新たな環境になり、みんな一歩ずつ成長していくんだなと思う今日この頃です。